

**留萌市第4回市民検討会議
議事概要**

日時：令和8月29日（金）15:00～17:00

場所：留萌市役所 会議室

出席者 委 員	藤野委員（座長）、笠井委員（副座長）、日野委員（橋本委員の代理出席） 前田委員、炭谷委員、坂本委員、畑中委員、小川委員、伊端委員、谷委員 矢作委員、菖蒲委員 ※順不同
欠席委員	上田委員、志田委員、山本委員
オブザーバー（留萌市）	渡辺総務部長、海野地域振興部長、大和都市環境部長、吉田教育部長 三上総務課長、林政策調整課長、竹内経済観光課長、安田建築住宅課長 百瀬生涯学習課長
事務局	留萌市市環境部複合施設推進室：大塚室長、成田主査、遠藤主査
運営支援	(株)ドーコン 佐竹、石田、渡邊

開会

- ・藤野座長開会あいさつ

1. 前回の振り返り

事務局

資料「第3回検討会議議事概要」及び資料①「第3回検討会議での主な意見」の説明を行った。
ここまでで何かあれば。

副座長

- ・先日の市民検討会議にて話題に挙がった「るもてつ」の提言書が公開されたので、是非ご一読いただきたい。

事務局

- ・参考資料「計画部会の協議内容」の説明を行った。
- ・ここまでで何かあれば。

一同

- ・なし。

事務局

- ・本日の議事に入る。

座長

- ・議事に移る。導入機能について、事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・資料2「留萌市新交流複合施設整備基本構想における導入機能」を説明。
- ・今年度着手した立地適正化計画に合わせて都市マスの見直しを行う。当該地区に関する考え方は変わらない。

- ・新施設はあくまで一時避難所として位置づける予定。

座長

- ・二次避難の際は当該施設から別の場所に移動するのか。

事務局

- ・指定避難所（二次避難先）は当該施設とは別の場所（留萌小学校や港南中学校）を想定しており、発災後当該施設へ避難された後、徐々に各避難場所開設のタイミングで移動する。

座長

- ・ホール機能に関する資料説明の前に、社会教育施設に関する庁内検討部会の開催、検討状況について、部会長である吉田教育部長から説明いただきたい。

オブザーバー

- ・当方からは第1回庁内部会（社会教育施設）での協議内容について説明する。
- ・部会メンバーとしては、関係課長5名の他、特定非営利活動法人 留萌スポーツ協会の伊端様、炭谷様に入っている。
- ・本部会では、「現施設のテーマ・課題」「利用者ニーズへの対応状況」「施設の管理状況」を踏まえ、新施設整備にあたってホール機能の規模や設備、運営方法について検討するものとする。
- ・第1回目の部会では、基本構想でのとりまとめ事項や前提条件を踏まえて協議を行った。
- ・利用者目線、管理者側での施設運営や施設に欲しい機能などについてアンケートなどで意見を聴取することが重要という意見が挙がった他、音楽合宿の今後の対応に際しても関係者への意見聴取をすべきという意見も見受けられた。
- ・社会教育施設についてはこれからの在り方や人材育成や体制構築が最も重要であり、運営についても指定管理以外の形について検討すべきと考えている。

座長

- ・音楽合宿の促進、廃止や他の用途など、将来の教育文化施設のあり方についてはどのように考えているのか。

オブザーバー

- ・音楽合宿の受入に伴い、市内にも一定程度効果がみられているので、可能であれば今後も継続して実施し、同時に市内への波及効果を狙っていきたい。

2. ホール機能について

座長

- ・ホール機能の参考事例について事務局より説明いただきたい。

ドーコンから資料3「ホールの参考事例」を説明。

座長

- ・委員からホール機能について説明いただきたい。

委員

- ・参考資料「第4回留萌市新交流複合施設整備検討会議への意見書」を説明。
- ・本資料は公共施設検討会議の報告書を基に、吹奏楽連盟や合唱団・演劇関係者・学校関係者のほか、大学教授や行政の担当者から意見をいただき、それらを取りまとめたものである。
- ・市民が参加できる参加型の劇場というものが1つの留萌のテーマではないか。
- ・今一度ホール整備の目的をどこに置くべきか検討しなければならない。芸術文化や防災など、何のために整備するかによって運営形態が大きく異なる。

- ・ホール機能の整備において、様々な地域が失敗している大きな要因は、市民または専門家のみで検討してしまっている場合が多い。裏を返せば、市民と専門家が一体となって検討していくことが成功のポイントになる。

座長

- ・基本構想の中でホール機能の使われ方の想定がある。現状、ホール機能のみ別で整備する可能性はあるのか。

事務局

- ・新交流複合施設の検討においては、当初老朽化が進んでいる社会教育施設の再整備に向けた検討を起点としており、その後庁舎機能や市民交流機能の追加に関する議論が後付けされた形となっている。

座長

- ・基本構想内において想定しているホール機能の面積について教えていただきたい。

事務局

- ・大ホール（ステージ・楽屋など）で合計1,330㎡、多目的ホールや調理室などで合計1,010㎡、総計で2,340㎡を上限としている。

座長

- ・仮にホールを全て固定席とした場合、想定面積に変動はあるのか。

ドーコン

- ・固定席とした場合、想定面積に変動はあるが必ずしも増加するわけではない。

座長

- ・仮にホール機能、コンベンション機能のいずれも防災の観点を鑑みた仕様となる場合は、移動式の席とする必要がある。
- ・そもそも新交流複合施設はどの地域までの避難者を受け入れる想定なのか。

事務局

- ・栄町、末広、高砂の各地区の中で津波浸水が想定される地域としている。なお、開運町や錦町は他の場所へ避難することを想定している。

委員

- ・今の議論はホール機能の話題と防災機能の話題が混在したものになっているのではないか。

座長

- ・今は防災機能に使うホール機能の議論をしている。
- ・施設整備にあたり、ホール機能、コンベンション機能のいずれも防災に対応しなければならないのかといった議論が必要。

委員

- ・改めて何のためにホールを整備するのかについて検討しなければならない。仮に防災の観点で議論するのであれば、意見と併せて根拠となる数字を示すべき。

事務局

- ・先程議題に上がった新施設への避難人口に関する参考値として、2025年度7月末時点の栄町、末広、高砂の総人口は1,579人となっている。

座長

- ・現状、音楽合宿に関する事業の収入利益はどうか。

委員

- ・留萌市内にとっては、主に移動や食事、宿泊などで年間約1,500万円の収入がある。また、留萌市から音楽合宿の主催者側へ年間約420万円を補助金として計上している。

委員

- ・音楽合宿によって収入が増えていることは間違いないが、継続有無を含む今後の方向性については皆で検討しなければならない。
- ・現状、文化ホールの利用者は少なく、音楽合宿または幼稚園や保育園のお遊戯会の練習が主な利用となっている。尚、お遊戯会の練習は無料となっている。
- ・新施設の整備に伴い、新たな使われ方の想定があればそれに基づいた計画・整備が必要となる。
- ・先程説明頂いたホール機能事例の中でも挙げられていたように、ホールの運営（指定管理など）についても検討しなければならない。また、舞台技術者を配置する場合は専門の業者に委託する必要があることから、新施設整備後におけるホールの使われ方について議論しなければならない。

座長

- ・仮にホールの整備費が10億円となった場合、収入が現状の1,500万円程度となると割に合わない。
- ・社会的、文化的に秀でた根拠が無ければ、現状ホール機能を固定席とすることは難しい。

委員

- ・音楽合宿以外にも、中学校の活用先としてコンベンションホールホールも考えられる。
- ・ホール機能、コンベンション機能の活用方針については、音楽合宿に限らず、留萌市内の中学校における活動（部活動）なども考えられる。より幅広い視点からホール機能、コンベンション機能のあり方について議論いただきたい。

委員

- ・音楽合宿で訪れた方々の宿泊先はどこになるのか。

委員

- ・現状、50人以下であれば留萌市港西コミュニティセンターまたは留萌市港東コミュニティセンター、50人以上は中央公民館2階の会議室を宿泊地とし、可能な限り市内への波及効果を高めている。

委員

- ・現在、留萌市内で300人以上が集まるようなイベントは年間何件程あるのか。

座長

- ・近年そのようなイベントが激減しており、現在はあまり開催されていない。

座長

- ・新施設への避難人数によってはホールを固定席に変更することは可能と考えている。
- ・高度な音響設備は自前での維持管理運営が難しいことから、簡素にせざるを得ないのではないか。

委員

- ・ホール機能に関する議論を進める際、考えの方向が文化・防災の二極化となることは避けたい。
- ・ホール機能は運営が重要になることから、より運営に関する専門家の意見を整理いただきたい。
- ・災害時における新施設への避難・収容人数の想定として正確な数字を整理いただきたい。
- ・ホール機能に関する検討にあたっては、収益よりも利用頻度や利用形態の方が重要と考えている。

座長

- ・防災用途での利用に関しては、仮に議会機能を可動式の席とした場合、災害時における議会機能の収容可能人数についても併せて検討いただきたい。
- ・現在の文化ホールは有料利用者がごく少数であることから、新施設の整備に伴い有料のイベント・コンテンツを開催できるかが重要となる。現状、新施設での開催可能性がある有料のイベント・コンテ

ンツはあるのか。

委員

- ・現状は新施設に300人以上が参加するイベントの誘致見込みはない。

座長

- ・以前実施された北海道開発局主催のイベント（※）では550人程が集まった。
- ・現状の文化ホールの利用形態に満足している人はいないと考えている。今後は興行などの誘致を促進していきたい。
- ・社会教育施設の運営について意見をいただきたい。

（※）イベント名：第9期北海道総合開発計画キックオフシンポジウム

会場：留萌市文化センター 大ホール

開催日時：2024年9月17日（火）13:30～16:00

委員

- ・計画の段階で運営主体について深堀する必要はないのではないか。
- ・今後、事務局においては新施設のホール機能などの運営について、専門家の意見を把握・整理・反映いただきたい。

ドーコン

- ・ホールの使われ方によって運営形態も異なると考えているが、運営の専門家とは具体的にどのような方を指しているのか。

委員

- ・一例として、ホール機能の運営における成功・失敗事例や大学教授などホール機能のマネジメントに長けている方からの情報を把握、整理することは可能か。

ドーコン

- ・参考にすべきは地方部の比較的小規模なホールを運営管理している事業者からの意見ではないか。

座長

- ・今後、事務局にはホール機能の運営に関する意見について整理をいただきたい。

ドーコン

- ・ホール機能の運営に関する話題や内容を資料に示したい。

委員

- ・ホール機能については様々な事例があるが、人口規模や位置によっても利用形態が異なることから、各事例における利用実態（イベント回数など）を把握することでより先の議論ができるのではないか。
- ・留萌市文化ホールの運営に関しては、元々は旭川市の業者を年間600万円程度で委託していたが、近年の人材難の影響によって文化ホールでの事業継続が困難となったため、現在はイベントごとに単発で各業者に委託している状況となっている。

委員

- ・各事例がそれぞれ留萌市の状況に当てはまるのかについても検討しなければならない。
- ・ホールの利用実態や重点を置くべき項目、交流複合施設の意義などを踏まえ、人口減少など将来を見据えた新施設のあり方について検討する必要がある。

座長

- ・新施設のホール機能においては、運用のしやすさを重視した設備とするべき。
- ・ホール機能については可能な限り留萌市内の事業者が運営主体を担うことが望ましい。

委員

- ・ホール機能について、幅広い利用を促すならば利便性・機能性・効率性、音楽合宿やコンサートの開催に重点を置くならば音響設備などの強化が必要になる。
- ・はじめにホール機能は収益性と公共性のいずれを重視すべきかについて議論しなければ計画の方向性がぶれると懸念している。

座長

- ・現状、産業会館における運営上の問題点を教えていただきたい。

委員

- ・産業会館は整備後50年以上が経過しており、いつ機能が停止してもおかしくない。
- ・現在は人件費がかさんでいることから、産業会館の運営には苦慮している。
- ・以前と比較して大規模なイベントが激減していることも踏まえ、今後産業会館においてイベント事業で収益を生むことは難しい。

副座長

- ・産業会館2階にあるホールの収容人数を教えていただきたい。

委員

- ・通常の宴会形式で200人程度。立食形式であれば200から300人程度の収容が可能。
- ・直近のイベント（留萌GX・みなとセミナー）では300人程度、みなとライオンズクラブのビアパーティーでは500人程度が集まったこともある。

副座長

- ・ホール機能について検討する際は、現状の社会教育施設の全てが議論の対象になるのではないか。
- ・ホールのみならず、各会議室などホール・コンベンション機能全体の規模に関する議論が必要。
- ・ホール・コンベンション機能の中で、会議室やホワイエなどで防災用途が補完できるのであれば、メインのホールを文化に重点を置いた機能として良いのではないか。

座長

- ・新施設内の各小会議室も避難所としての活用を想定しているのか。

事務局

- ・大規模災害時は一時避難所となる新施設に最低3日滞在する可能性がある。その後は周辺の避難所の開設状況に応じて順に移動することから、全員が新施設を離れるまでの備蓄品や避難場所を確保しておく必要がある。
- ・ホール・コンベンション機能についてより多目的な活用に向けた意見をいただきたい。

委員

- ・実際のところ利益目的での整備は厳しいことから、市としてどの程度の赤字なら許容できるのかによっても整備方針が異なる。
- ・市職員の意見も伺いたい。

委員

- ・留萌市としては起債なども考慮しなければならないことから、防災の用途も含めて検討した方が良いと感じている。

委員

- ・津波や洪水など水災害と比較して、新潟県中越地震などの地震災害時の避難者については、災害後一時避難所に長く滞在する傾向がみられ、実際に被害にあった自治体からは平たく広いスペースがあると良いといった意見も聞かれた。
- ・上下水道の話になるが、大規模災害発生時は外部から技術者が現場へ派遣され、そこで前線基地をつくる必要があることから、新施設において一定程度の会議室を前線基地用として確保したい思いがある。

る。

- ・個人的にはホール・コンベンション機能における防災用途に重点を置いた議論を深めたい。

座長

- ・ホール機能については固定席を希望する方も多いと考えられるが、前提として避難想定や災害対策本部などの設備との兼ね合いになる。
- ・防災機能の議論に移る。

委員

- ・社会教育施設は社会人の教育の場として重要な役割をもつことから、その部分を必ず押さえた上で議論を進めていただきたい。
- ・防災に対する考えも重要だが、津波や洪水など大規模災害の発生確率が非常に低いことも考慮すべきと考えている。

ドーコン 佐竹担当技師長

- ・音響設備にこだわった「高田城址公園オーレンプラザ」は、専門的な操作の増加によって操作を直営から専門業者に委託するようになった一方、簡易的な音響設備とした「東神楽町複合施設はなのわ」は、専門業者が音響機材を追加で持ち込まなければ本格的な公演には不十分な施設となっている。
- ・ホール機能の使い方の方針によって整備の優先度や度合が異なる。

3. 防災機能について

ドーコンから資料4「防災機能概要」について説明。

座長

- ・標高の低いエリアに一時避難所機能をもつ施設を建設することに意味があるのではないかな。
- ・新施設は避難所機能に加えて災害対策本部などの機能を確保する必要があることから、小会議室まで避難スペースにすることは難しい。
- ・新施設の整備位置については議論の余地がある。(道の駅側に寄せるなど)

委員

- ・資料1 1 ページ(周辺と連携し市民が使いやすい施設配置計画の検討)について異論はない。また、オーバーハングや船場公園との接合、道の駅からの流入などの考え方についても問題ない。
- ・道の駅へのアクセス性向上の観点から、可能であれば整備位置を道の駅側へ寄せていただきたい。
- ・先日公表された「るもてつ」の資料は非常に濃い内容となっており、参加者・関係者間の意識共有を図る上で有効なものになる。機会があれば「るもてつ」資料の周知について検討いただきたい。

副座長

- ・津波災害時における避難について、現状の想定だと船場地区及び本町地区の避難先は市営住宅もしくは春日町方面となっているが、井原水産の周辺など新施設への避難対象者は想定より広域にわたるのではないかな。
- ・避難対象エリアによっては対象人数、収容人数などの根拠資料が異なることから、これらの詳細について教えていただきたい。

事務局

- ・今年度、留萌市津波避難計画を改定すると防災担当から伺っている。
- ・津波避難計画上では主に10mを超える津波が37分で海岸に到達することを踏まえたものになっている。詳細については今後確認する。

副座長

- ・ヴィレッジエリアA(モンベルアウトドアヴィレッジるもい基本計画より)に指定されている敷地の一部も含め、新施設の整備予定地は現状の想定よりも広く奥行をもたせるべきではないかな。

- ・ 一帯の土地を確保すると同時に、船場公園や「ちゃいるも」、アクティビティ施設との接続、避難距離の確保を目的とした整備予定地の拡張（ヴィレッジエリアA及び船場公園側）については議論の余地がある。

座長

- ・ 新施設の整備予定地をヴィレッジエリアAも含めたレイアウトに変更することは可能なのか。

事務局

- ・ ヴィレッジエリアAは東西に細長い区域に加え、専用地及び法令区域となっている。

副座長

- ・ ヴィレッジエリアA全てに係るものではなく、バスターミナルや駐車場の配置などを踏まえると、整備予定地がもう少しヴィレッジエリアAに広がっていると提案の幅の広がるのではないかと。

事務局

- ・ 整備予定地をヴィレッジエリアAの一部まで広げることは可能。

委員

- ・ 以前から、留萌信金（本店）側と船場公園とのアクセスの悪さを懸念していた。道の駅との連携を深めるには、旧留萌駅の南北が繋がるような施設立地について検討しなければならない。
- ・ パークゴルフ人口も減少傾向にあるので、パークゴルフ場や芝生にこだわり過ぎて全体のレイアウトを間違えてしまうことだけは避けていただきたい。

委員

- ・ ヴィレッジエリアAの境界線にはこだわらなくて良いと考えている。
- ・ 資料7ページにあるオーバーハングの形状はカッコ悪いのではないかと。一階の床面積を減らす必要があるならば、施設の真ん中に開口部を設けて自由通路を配置した方が良いのではないかと。
- ・ 仮に積雪などの観点からオープンなしつらえにできないとなった場合は、重構造のドアを設置することも良いと考えている。

副座長

- ・ 基本計画の中でオーバーハングの導入可否に関する話題を記載する必要はあるのか。

ドーコン

- ・ 基本計画は後の基本設計に繋ぐ役割があるので、文言の整理だけでなく、ある程度形にしていくことが重要となる。
- ・ ヴィレッジエリアAの活用については問題ないが、パークゴルフ場を活用するとなると解体などで費用の増加が懸念される。都市計画公園の区域変更など都市計画手続きは必要となるが、旧留萌駅舎裏にあるトイレの手前あたりまでであれば広げることが可能と考える。
- ・ ホールの導入にあたっては施設に奥行が必要となることから、ヴィレッジエリアAの敷地内でホールを導入した施設計画をつくることはできない。

委員

- ・ 整備予定地から「ちゃいるも」やアクティビティ拠点までそれほど遠い位置にないことから、拠点間の距離について検討する必要はあるのか。

委員

- ・ 新施設と各拠点間をシームレスに、思わず行ってみたいな人が増えるような整備ができると良い。

座長

- ・ 防災については基本的に不要な機能は無いのではないかと。
- ・ 整備予定地が浸水可能性のあるエリアに敢えて避難施設を整備することに意味がある。
- ・ 施設形状については1階に空間を持たせることが周辺との連動性向上に繋がると考えている。いずれ

- にしても、2階部分にボリュームを置くことが望ましい。
- ・個人的には太陽光発電の導入に対して疑問が残る。
- ・施設配置については、可能な限り道の駅などの拠点に近づけた方が良い。

4. その他

委員

- ・庁内検討会議における協議内容について、可能であれば文書で公開してほしい。
- ・情報発信機能に関しては次回会議にて意見する。

副座長

- ・庁内検討会議など全体的な組織図や各検討会議の開催状況に関する資料があれば共有いただきたい。

事務局

- ・検討する。

座長

- ・ホール機能に関する検討は特に重要な項目と考えており、今後も継続的に検討を進めたい。
- ・個別事業者との協議については事務局及び私で対応する。
- ・先日、金融機関の担当者と協議し、前向きな意思を持たれていることを確認した。今後も他の機関との協議を進める。

事務局

- ・次回会議のテーマは庁舎及び議会機能、その他機能についてとなる。市民検討会議は9／30（火）14:00（市役所3階会議室）、専門部会は9／17（水）15:00（市役所2階2号会議室）からとする。

委員

- ・議会のとりまとめ結果はいつ頃共有いただけるのか。

事務局

- ・議会のとりまとめ結果は9月中に共有できればと考えている。

以上